

令和4年度 学校司書配置の 効果検証報告

中央図書館地域サービス担当(学校図書館支援グループ)
令和5年12月

学校図書館活用推進事業

平成27年度から「学校図書館活用推進事業」を開始し、学校図書館補助員・同コーディネーター等の配置や、学校図書館の蔵書の充実を行いました。これにより、使いやすく親しみやすい学校図書館の環境整備が進みました。令和4年度からは、専門的な業務を担う学校司書等の配置を行うなど、整備された学校図書館を一層活用した教育活動の充実に向けて取り組んでいます。

○学校司書等の配置

○学校図書館の蔵書の充実

教育振興基本計画 施策目標		実績		目標
		R1末	R4末	R7末
学校図書館貸出冊数(児童生徒1人当たりの年間貸出冊数) 【本市調査】	小学校	29冊	32冊	38冊
	中学校	3冊	2.8冊	6冊
「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合 【本市調査(大阪市小学校学力経年調査)】	小学校のみ	69.7% (R2末)	69.8%	80.0%

令和4年度より「学校司書」を配置

整備されてきた学校図書館の一層の“活用”を図るため、令和4年度より学校図書館補助員にかえて「学校司書」を配置

令和4年度～

- 全小中学校と義務教育学校に「学校司書」を配置 週1回・6時間(回数・時間は補助員と同じ)
- うち市内24校(各区1校)に「主幹学校司書」を配置 週4回・30時間

令和5年度～

- 25学級以上の11校に学校司書を加配 週2回・12時間(週1回・6時間の加配)

学校司書と学校図書館補助員との違い

		配置日数	業務内容	採用試験応募資格
平成27年10月～ 令和3年度	学校図書館 補助員	週1日 6時間	開館や、蔵書管理、図書館の環境整備などの業務を補助	問わない
令和4年度～	学校司書	週1日 6時間	蔵書管理・利用管理・学習支援・読書普及活動 等の中から 各校の課題に応じた業務を補助	司書・司書補, 司書教諭 資格 または 図書館勤務経験
	主幹学校司書	週4日 30時間	選書支援・レファレンス支援、調べ学習支援等、 専門的な業務 も担う	

学校司書配置の貸出冊数への効果

令和3年度と4年度の1人当たりの年間貸出冊数の比較

		令和4年度			令和3年度	
		校数	開館回数	1人当たり貸出冊数	開館回数	1人当たり貸出冊数
小学校	学校司書	262校	7.0回	31.0冊	8.1回	27.4冊
	主幹学校司書	21校	10.8回	42.3冊	7.9回	34.8冊
	全体	283校	7.3回	32.0冊	8.0回	28.0冊
中学校	学校司書	123校	7.2回	2.7冊	8.2回	2.8冊
	主幹学校司書	4校	11.0回	5.0冊	8.8回	2.2冊
	全体	127校	7.3回	2.8冊	8.2回	2.8冊

令和3年度と比較して、小学校の1人当たり年間貸出冊数は、全体として伸びている。
中学校では、小学校と違い図書の時間がないため、コロナ禍の影響が大きく、学校図書館の利用が低迷している。

主幹学校司書配置校では、小・中学校ともに学校司書配置校と比較して、伸び率大きい。
学校司書の配置により、貸出冊数に効果があったと言える。

学校司書配置の貸出冊数への効果

令和4年度の開館回数と1人当たり年間貸出冊数の比較(小学校)

	開館回数	0～4回 (※2)	5～8回	9～12回	13～16回	17～20回	全体
学校司書 (週1日) 配置校	貸出冊数	30.7冊	31.8冊	31.4冊	30.2冊	-(※1)	31.0冊
	校数	48校	145校	66校	2校	1校	262校
主幹学校司書 (週4日) 配置校	貸出冊数	31.9冊	38.2冊	50.8冊	37.6冊	33.3冊	42.3冊
	校数	1校	6校	8校	5校	1校	21校

開館回数: 令和4年度学校図書館活用状況調査票(始業前、2-3間休み時間、昼休み、放課後の1日最大4回を数える)

貸出冊数: 令和4年度末の事務局調査

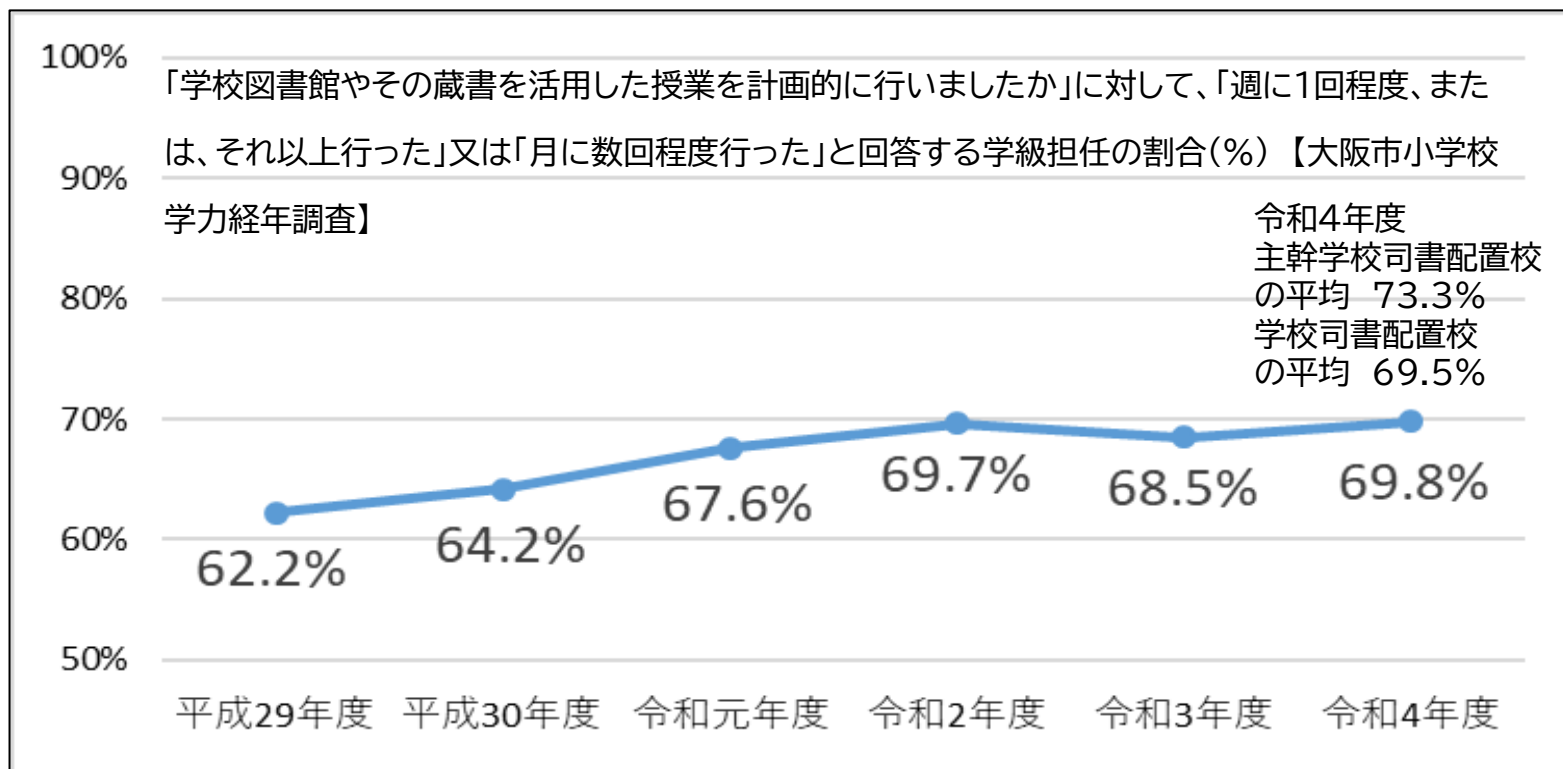
(※1)電算化していない学校のため、貸出冊数未提出

(※2)令和4年度は、コロナ感染症拡大防止のため、開館回数0回の学校司書配置校が2校あった。令和5年度は再開している。

学校司書(週1日)配置校では、学校司書の勤務日以外は、教職員、児童、ボランティア等が開館しているが、開館回数による貸出冊数に差はない。

つまり、開館しているだけでは、貸出冊数の増にはつながらない。

学校司書配置の授業での活用の効果



大阪市小学校学力経年調査による、授業を計画的に行ったと回答する学級担任の割合については、微増の状況で、令和4年度に顕著な変化は見られない。

つまり、現時点では学校司書配置による効果があるとは言えない。

主幹学校司書配置校でも、数値上著しい効果があるとは言えない。ただし、現場からの報告で、質の向上は確認できる。

学校司書の専門性

日々の教職員・児童生徒の対応の経験に基づき



学習に役立つ資料の提供

児童生徒のニーズにこたえる図書の選書

教職員・児童生徒の読書相談・調査相談に応じる

教員の声

- ・ 事業が始まってから徐々に、学校図書館に必要な本がそろってきた。
- ・ 授業での活用を進めるには、教員と学校司書との「打ち合わせ時間」の確保が必要である。
- ・ 学校現場では、1人1台端末の活用もあり、学校図書館を活用する余裕がない。
- ・ 学校司書にさらに授業づくりに向けた支援をしてほしい。

現場教員への聞き取りより

児童の声

「読み聞かせをしてくれる」「おすすめ本をおしえてくれる」「本を探すとき、場所を教えてくれる」「発表にむけてアドバイスをしてくれた」「わからないことを教えてくれる」「役立つ本をテーマごとに教えてくれた」

主幹学校司書配置校での児童への学校図書館アンケート結果報告「学校司書がいてよかったこと(自由記述)」より抜粋

学校司書の学習支援の現状

- 学校司書配置の趣旨や役割についての理解は徐々に広がりつつあり、週1回配置校においても学校司書の専門性を発揮した学習支援の取組が増え始めている。
- ただし、週1日6時間のため、教職員との打ち合わせ時間や学習支援の準備時間が確保できず、密な連携がしにくい現状がある。
- 学校によって取組には差があり、学校司書の役割や学校図書館の活用について、教職員への周知をさらに行っていく必要がある。

学校司書が専門性を発揮し、学校図書館が活用されるための課題

1. 学校図書館における業務環境の改善

教育情報ネットワークシステムの端末がないため、データのやり取りが煩雑。

学校司書がインターネットにアクセスできる環境がないため、ネットワーク上の情報と、学校図書館の資料を併用した学習支援が難しい。

2. 学校司書の業務時間の配分

学習支援をするための教員との打ち合わせ時間や準備時間を捻出する手立ての検討。

週1日配置の学校司書が専門性を発揮し、学校図書館が活用されるため 現行体制において可能なこと

1. 学校司書研修の充実

- 着任時研修 新規採用した学校司書への基礎研修（勤務条件、服務、学校図書館の基礎的な知識等）
- 区研修（年2回） 学校司書同士の情報交換
- 全体研修（年2回） 服務、人権、スキルアップのための業務研修
- 蔵書管理システム操作研修 学校図書館の蔵書管理システムの操作研修
- テーマ別研修 選択制、少人数のワークショップを含む業務研修

2. 事例共有のための取組の充実

- 蔵書構成充実に向けた取組のための図書リスト、大阪市学校図書館基本図書リストを、主幹学校司書の選書をもとに作成し、学校に提供した
- 主幹学校司書定例会での事例共有
令和4年度は、実践事例の報告を受けて、適宜コーディネーターを通して学校司書に還元
令和5年度は、テーマを設けて研究を行い、事例集や共有ツールを作成し、大阪市全体で共有予定

まとめ

- 学校司書配置による施策目標達成効果

学校司書の配置日数増は、授業での活用について、現時点では著しい効果があるとは言えないが、貸出冊数の増にはつながると言える。

- 配置を拡大するには、人材確保、財源の面で課題がある。



現行体制でできる取組強化を行いつつ、引き続き有効な学校司書の配置体制について検討していく必要がある。